

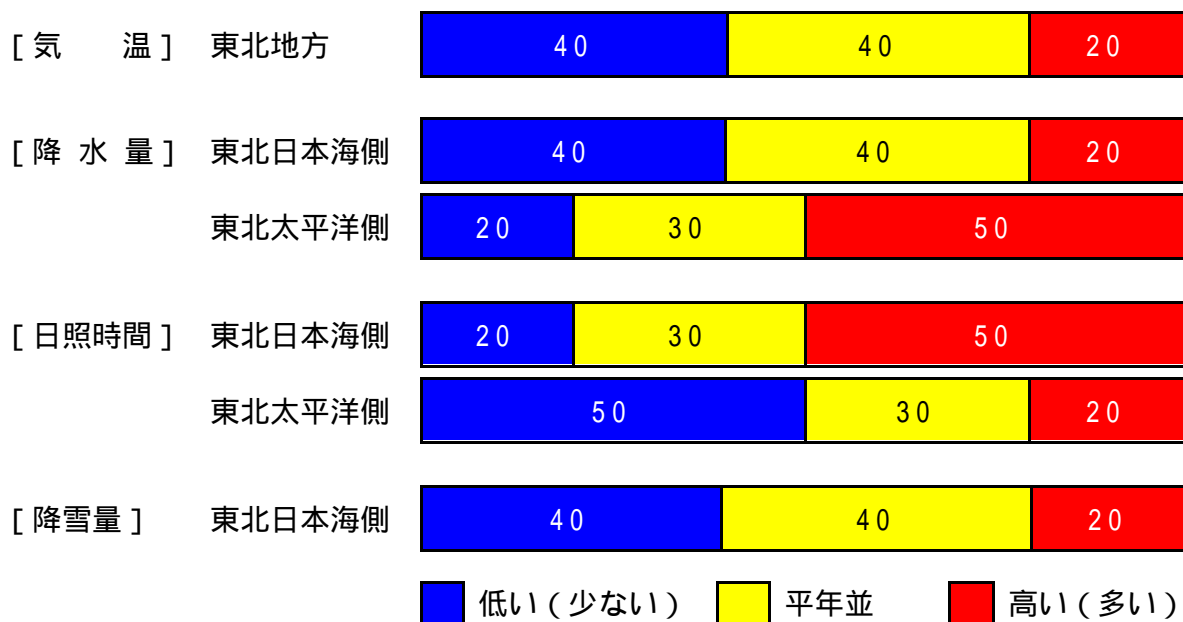
東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：1 月 6 日～2 月 5 日）

平成 13 年 1 月 5 日 仙台管区气象台

0．お知らせ

1 か月予報は、本日（1 月 5 日）発表する予報から、1971～2000 年の 30 年平均値に対して予報します。また、各階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間の出現率が各階級で等確率（33%）になるように定められています。

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気 温]: 東北地方は「平年並」か「低い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「高い」の可能性は 20% と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

東北太平洋側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

東北太平洋側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

2．予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

2 週目は冬型の気圧配置が続く見込みですが、その他の期間は、冬型の気圧配置は長続きせず、気圧の谷が周期的に通過するでしょう。東北日本海側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

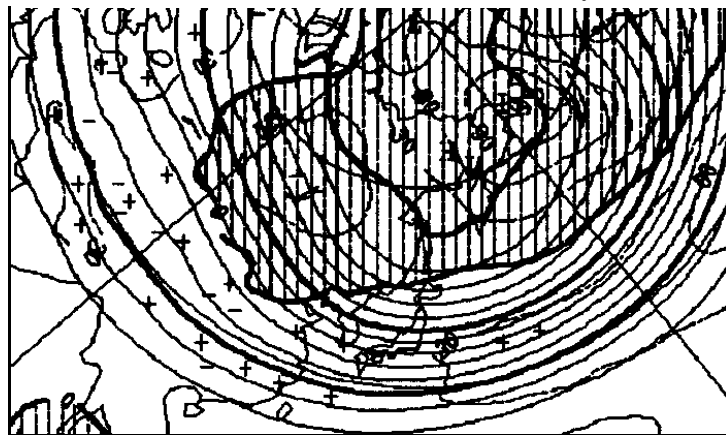
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数(向こう 4 週間): 東北日本海側約 5 日、東北太平洋側約 18 日

各予報期間の天候の特徴

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1 週目……………
(1 月 6 日～1 月 12 日) | 8 日頃と 10 日頃に気圧の谷が通り、天気にくずれるでしょう。
気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪の所が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心に晴れる日がある見込みです。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数: 東北日本海側約 1 日、東北太平洋側約 4 日 |
| 2 週目……………
(1 月 13 日～1 月 19 日) | 冬型の気圧配置が続くでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。
平均気温は低い見込みです。
平年の晴れ日数: 東北日本海側約 1 日、東北太平洋側約 5 日 |
| 3～4 週目……………
(1 月 20 日～2 月 2 日) | 冬型の気圧配置は長続きせず、気圧の谷が周期的に通過するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数: 東北日本海側約 2 日、東北太平洋側約 9 日 |

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

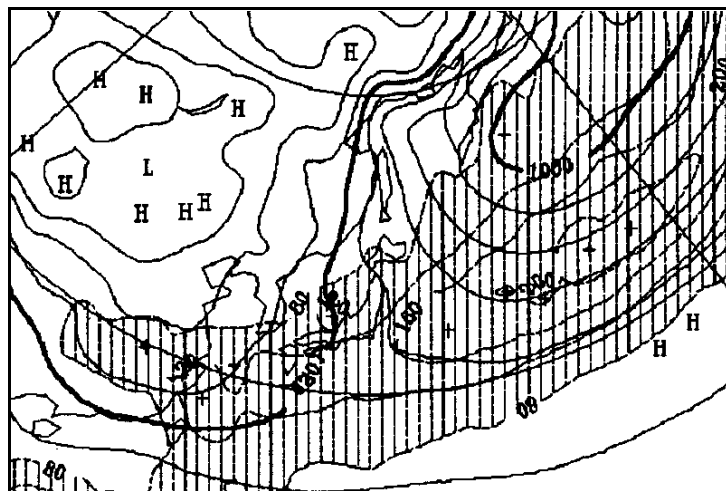


月平均の 500hPa 高度・偏差
（等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、負偏差域はバイカル湖付近とベーリング海。日本付近は弱い正偏差域が広がる。日本付近の偏西風は東西流が卓越しており、周期変化が基調だが、時々寒気の影響を受ける見込み。

週別（図略）では、2 週目は日本付近負偏差で寒気が入りやすい。1 週目と 3～4 週目は日本付近弱い正偏差。

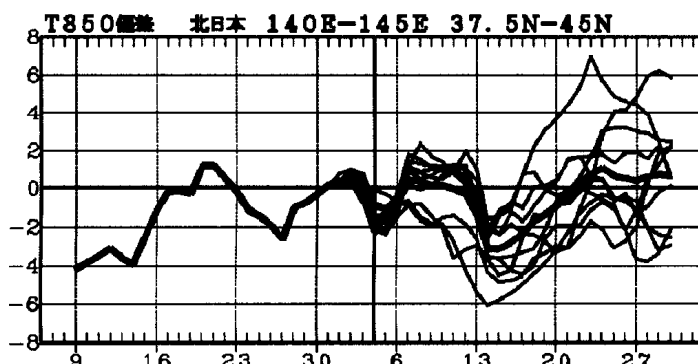


月平均の地上気圧と降水量
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸に高気圧があり、西日本に張り出す。一方、ベーリング海では低気圧が発達して、日本付近は冬型の気圧配置となっているが弱い。まとまった降水域は日本の東海上だが、日本付近広く降水域に覆われる。

週別（図略）では、2 週目に冬型の気圧配置がはっきりするが、1 週目と 3～4 週目は冬型の気圧配置は弱く、周期的に気圧の谷が通過する見込み。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸：気温平年差（℃） 横軸：日付）

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

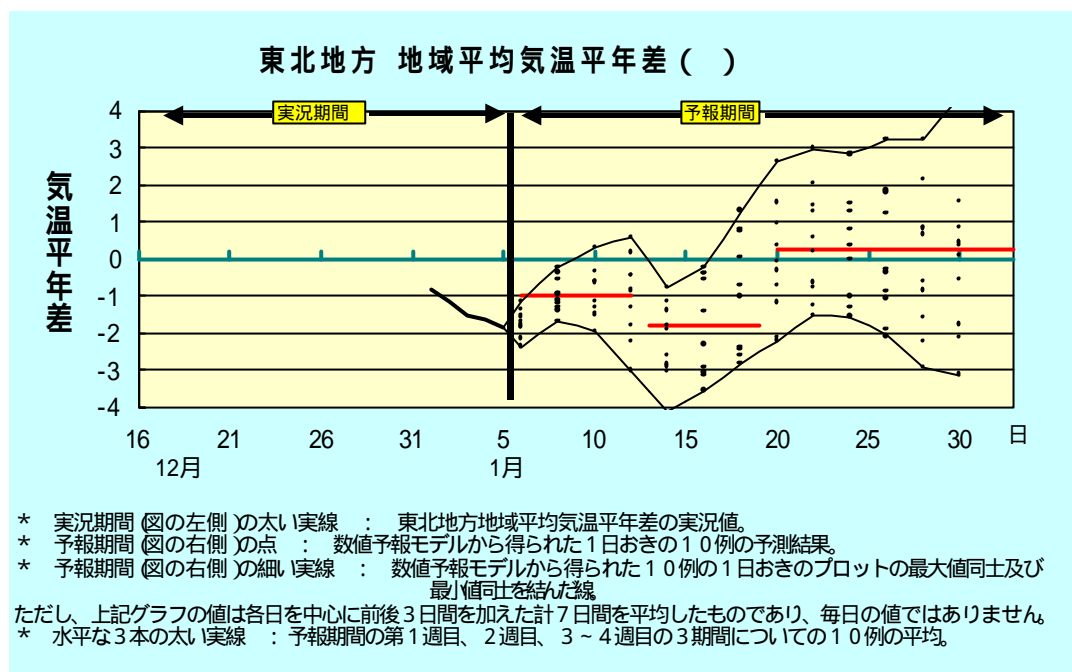
アンサンブルメンバーの平均は、1 週目は平年並、2 週目以降は平年より低く、3 週目以降はほぼ平年並。

多くのメンバーが概ね同じような傾向を示しており信頼度は大きい。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1 週目「平年並」、2 週目「低い」、3～4 週目「平年並」を予測している。
アンサンブルメンバーのばらつきは3 週目以降大きくなる。

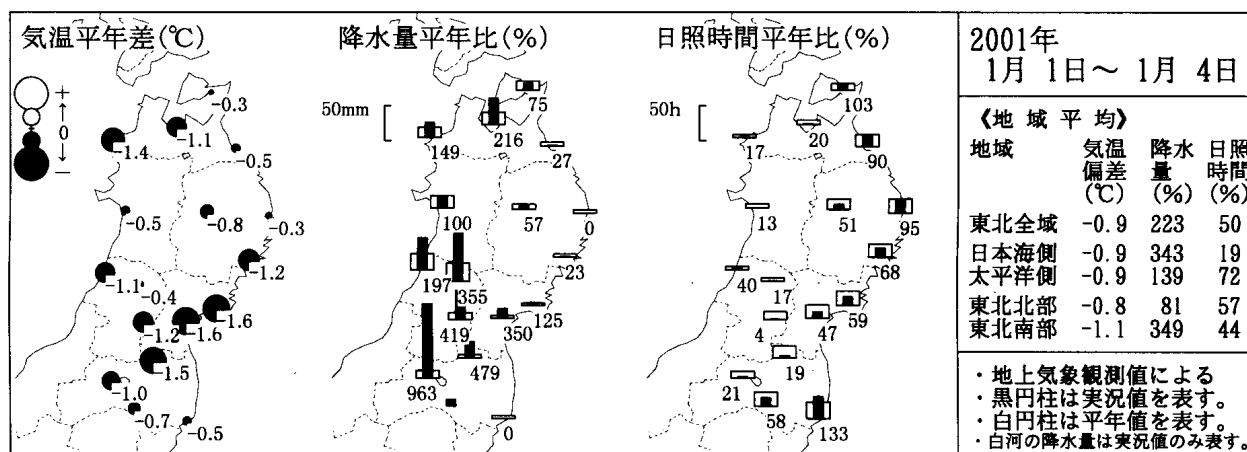
注)2001 年 1 月 1 日から平年値が変更になりましたので、下図の実況期間の 12 月については表示していません。



4．最近 (1 月 1 日～1 月 4 日) の天候の経過

この期間、冬型の気圧配置が続いた。3～4 日は上空に強い寒気が入り、東北南部を中心に大雪となった。このため山形新幹線が終日運休するなど交通機関が混乱した。日降雪量は、若松 65cm (3 日、1 月として第 2 位)、福島 30cm (4 日、1 月として第 1 位)、山形 22cm (3 日)、仙台 10cm (3 日) など、最深積雪は、若松 97cm (4 日、1 月として第 3 位)、新庄 84cm (3 日)、山形 41cm (4 日)、福島 28cm (3 日)、仙台 12cm (4 日)などを観測した。

平均気温は、東北地方で平年差 -0.9 と平年を下回った。降水量は、東北南部で平年比 349% と平年を大きく上回り、東北北部で平年比 81% と平年を下回った。日照時間は東北日本海側で平年比 19%、東北太平洋側で平年比 72% と平年を下回った。



最近の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 (比)